

高知リハ

学校法人高知学園 高知リハビリテーション学院
学校法人高知学園 高知リハビリテーション専門職大学

キャンパス通信

01

2019年9月30日発行



高知リハビリテーション専門職大学開学式・入学式
平成31年4月4日(木) 高知市文化プラザかるぼーとにて



高知リハビリテーション 専門職大学のめざすもの



みなさんの自己実現を支援する大学(教育)をめざしています

高知リハビリテーション専門職大学 学長 小嶋 裕
Kochi Professional University of Rehabilitation —Ojima Yutaka—

新しい大学制度としての「専門職大学」での教育が開始されました。本学では、これまでの50年間のリハビリテーション専門職養成の実践を基盤として、教育(研究)活動の新たな展開を迎えました。

学校法人高知学園の建学精神は、「至誠をもって事にあたり、人や社会に信頼される人物の育成」です。この精神に基づいて「リハビリテーションに関する専門的な知識と技能を習得した、至誠心に富み、信頼される理学療法士、作業療法士、言語聴覚士を育成する」ことを大学の理念としています。

リハビリテーション専門職は、**Allied Health Professions (健康に関連する専門職)**です。また、**Rehabilitation for well-being in life. 「リハビリテーションは、人がより健やかに(幸せに)生きていくための支援」**を担っています。

この概念(理念)の原点は、リハビリテーション医学の先達である、Howard A. Rusk (Professor, New York University, 1901 ~ 1989) のリハビリテーションを表現する次の言葉です。

• **Not only to add years to life, but also to add life to years.**

「人生に年月(物理的時間)を継ぎ足すだけでなく、(延長された)年月に生命をつぎ込むことである」(訳・砂原茂一)

• **To believe in rehabilitation is to believe in humanity.**

「リハビリテーションで信じるということは、人間らしさを信じること」

QOL (quality of life、生命・生活・人生の質)の向上をめざすには、リハビリテーション・サービスを提供される側(する側)に、共に「人間らしさ」の維持・回復を「信じること」が求められます。

医療・保健の分野(領域)の専門職になるためには、国家資格(取得)が必要になります。そのために、ほとんどの入学生は、しっかりと「**18歳の選択**」が必要になります(要求されます)。すなわち、前述のリハビリテーションの概念(理念)を理解され、「どのような仕事なのか、どのような社会的役割を担うのか」をよく考えなければなりません。その選択に誤りがないように、学修上の不備にならないように、しっかりとその確認を行って下さい。

教職員と学生は、ともに真摯に「リハビリテーション学」の発展に取り組み、「専門職大学」の特性をしっかりと捉えて、論理的思考、実践力、課題解決能力及びコミュニケーション(意思疎通)能力の向上に努めます。更に学生の方々の「**自己実現(可能性の発見とその発揮)を支援する大学(教育)**」をめざしています。ともに「**新しい大学の創造**」に参加しましょう。

最後になりましたが、本学の開学にあたり、多大なご支援、ご示唆を頂きました方々(団体・機関)に衷心より感謝を申し上げます。今後とも宜しくご指導の程お願い致します。

高知リハビリテーション専門職大学 リハビリテーション学部リハビリテーション学科
第1期生: 理学療法専攻 67名 作業療法専攻 34名 言語聴覚専攻 31名 計132名

専門職大学とは？

専門職大学は、理論に裏付けされた高度な実践力を有し、変化に対応する応用力や創造力を発揮できる高度な専門職業人の養成を目指す新しい大学である。これは、大学のアカデミックな学びと専門学校の実践的な学びの双方の特色を兼ね備えている。

卒業要件は124単位以上で、授業科目は①基礎科目、②職業専門科目、③展開科目、④総合科目、の4つの科目群を設定することが求められている。

専門性が求められる職業を担うための実践的かつ応用的な能力を展開又は育成するという専門職大学の目的に鑑み、設置基準では、卒業に必要な単位の約3分の1以上は実習等で構成され、そのうち一定期間以上企業等での長期実習を含むこととされている。校舎・校地に必要な面積・教員などの教育条件についても、既存の大学設置基準における必要教員数などの基準に準拠している。異なるのは一つの授業で同時に授業を受ける学生数を、原則40人以下とすることを義務付けている点である。また、必要専任教員数のおおむね4割以上は、実務家教員とし、その必要数の半数以上は、研究能力を併せ有する実務家教員としている。質保証のメカニズムのひとつとして教育課程連携協議会を設けて、産業界および地域社会との連携を図るものとしている。



理学療法学専攻
専攻長 稲岡忠勝

専門職大学は各業界でのリーダーとなるべき人材を育成する実践的な職業教育を行う高等教育機関です。本大学の理学療法学専攻ではそのような人材育成のため、基礎的な科目はもちろんのこと、①健康課題の理解、②組織にお

ける事業運営の理解、③事業の発案・実行の理解について学び、地域に大きく貢献できる科目を展開しています。また実習については長年専修学校として築いてきた質の高い施設で、安心して充実した内容を提供できると確信しております。他にも近年注目を集めている急性期施設での知識や実技を体験・練習できる施設も充実しており、社会からより求められる療法士の育成にも尽力しています。長い伝統を活かしつつ、新しいことに多く取り組み、日本初で認可を受けた専門職大学として期待に応えられるよう教育を進めていきたいと思っております。

作業療法学専攻は、社会的弱者である対象者が、「地域で」「そこに住む人々とともに」生活するための支援ができる作業療法士の養成を目指しています。

そのために、普段の授業から実習科目を多く取り入れています。また作業療法士になるための科目に加えて、作業療法展開科目として、高齢者や障害をもつ人々や子どものおかれている社会環境や支援の制度について学修します。展開科目は、学外から講師をお招きしています。

このような学びから、対象者をよく知り、その人の困っていることは何か？持っている力がどうすれば十分に発揮できるのか？そのためにはどんな工夫が必要なのか？などを考え、その人に寄り添うことができる能力を身につけられるよう、カリキュラムを構成しています。



作業療法学専攻
専攻長 辻 美和



言語聴覚学専攻
専攻長 石川裕治

専門職大学が開学し、言語聴覚学専攻の一期生31名が新たな一歩を踏み出しました。本専攻の特徴として、まず、臨床実習を20単位(指定規則は12単位)と多く実施することです。病院等で勤務する言語聴覚士と連携し、現場から求められ、また即戦力となる言語聴覚士を養成することを目的とします。次に、他の養成校では実施していない科目(展開科目)を20単位用意しました。あらたな言語聴覚士の職域を開発することが目的で、具体的な科目として、「マンガ概論」「マンガ基礎実習」「活字デザイン論」「視覚デザイン概論」「カラーコミュニケーション概論」等があり、学生が興味をもち、楽しく学修できるものを設けました。

言語聴覚士を養成する大学は、四国で本学のみです。また、専門職大学としても、最初に認可された学校でもあり、全国でも注目を集めています。これまで専門学校で培ってきた伝統を活かし、未来を担う言語聴覚士の育成を目指していきたいと考えています。

教員紹介



清水 一 しみず はじめ
作業療法学専攻 教授

日本国憲法制定の同じ年に大阪市東住吉区に生まれる。昆虫やラジオ少年で草野球も近所の子供と焼跡で遊んでいた。高校卒業後、大学受験をしたが、国策(厚生省)による日本初リハ専門職養成施設の国立療養所東京病院附属リハビリテーション学院だけに受かった。専門教科を教える邦人教員が居ないので政府が雇い

入れた外国人教師達から英語による授業を受けた。基礎や臨床医学はこの分野の新進気鋭の先生方であった。この分野への開拓者魂も否応なく注がれた。卒業し同学校の助手となったが、同年暮れには東京大学医学部附属病院リハビリテ-

ション部での臨床家へと転職した。臨床を通してこの職種の理論的根拠が脆弱に感じ、先進国の実際を知るべく8年目で合衆国ボストン大学の大学院へ留学した。乏しい英語力のため時間がかかったが卒業し、米国のOT資格を取り臨床も行い合衆国で通算4年少々暮らした。その後、この専門職教育を文科省が短大制度で始め出し、日本中の国立大学で順繰りに医療技術短期大学部が設置された。私が、群馬大学に赴任した7年後、広島大学に4年制大学教育を日本で初めて始めることとなり、設立の一員として参画することになった。約20年間、広島大学で、学部、大学院前後期課程の教育に参加した。広島大学名誉教授の称号を得た。退職後は半自給自足的な生活を夢見たが、経緯で私の居住地域の私立病院での回りハ病棟立ち上げに努力した。2019年にこの分野で日本初の専門職大学の本学に関わることとなり、現在に至っている。このように私はこの分野の様々な事始めに携わっているようである。この大学と分野の発展を学生と一緒に進めてゆきたいと思っています。



武内 和弘 たけうち かずひろ
言語聴覚学専攻 教授

言語障害に取り組んで半世紀になります。1970年に岡山大学(言語学専攻)を卒業、重症心身障害児施設・旭川児童院(岡山市)で言語訓練士として働き始めました。

言語訓練の傍ら、食事や入浴の介助、オシメ交換に励んだ後、1974年に誘いを受け広島大学に移り、主に口蓋裂児の言語療法を担当しました。平行して広島鉄道病院で失語症や構音障害患者に出会い、失語症友の会を立ち上げたのもこの頃です。嚥下障害や在宅ケアにも関心を寄せました。

次いで、1995年に広島県立保健福祉短期大学(現在は県立広島大学)の創設に関わり、言語聴覚士の養成を始めました。2012年に定年退職。以後、広島国際大学(5年)、広島都市学園大学(1年)を経て、この4月から本学の言語聴覚学専攻に勤め始めました。

太平洋に面した高知は、食べ物や飲み物に恵まれ、吉備団子と紅葉饅頭の瀬戸内育ちには、少し羨ましくもあります。何分よろしくお願ひ申し上げます。



田頭 勝之 たがしら かつゆき
リハビリテーション学科 学科長
理学療法学専攻 教授

高知リハビリテーション学院理学療法学科13期生として昭和59年3月に卒業し、平成31年4月、高知リハビリテーション専門職大学開設に伴い35年ぶりに高知へ戻ってまいりました。その間、病院における理学療法士、専門学校及び大学の教員として、ほとんどの職場で開設に携わる機会に恵まれました。この経験を新たな大学制度に活かせるよう努力したいと思えます。

大学における学びとは、「無知の知」すなわち、自己の無知を自覚し、自ら知識や教養を積極的に修得することにあると言えます。このような学びをサポートしながら、共に成長できる教育(共育)でありたいと思います。今後は、高知リハビリテーション学院52年の伝統を受け継ぎ、さらなる発展に微力ながら参画していきたいと考えています。

学校生活



作業療法学科 2年生 森田 匠海

私は、幼少時より吃音を持っており、コミュニケーションを図ることや人前で話すことがとても苦手です。そのためコミュニケーション能力が必要である臨床見学実習は、自分にとって大きな不安でしかありませんでした。2年生では臨床見学実習に向けての臨床実習基礎演習Ⅰの授業があり、コミュニケーションスキルを学ぶと同時にそのスキルを用いて社会生活技能訓練を实践することで以前に比べ自信がつかました。

臨床見学実習については、まだ不安な面もありますが、授業で学習したことを活かして実習を楽しむ気持ちで臨みたいと思います。



理学療法学科3年 岡本 啓志

今年の野球部は、守備からリズムを作り、打線も元気なチームです。3年生6名、2年生4名、1年生が3名の合計13名と少ない人数ですが、その分まとまりのあるチームです。またマネージャーも4名在籍しており、陰から支えてくれています。

高知リハビリテーション学院の野球部は、高知県軟式野球連盟に参加しており、今年は2度県体大会まで進出できています。今の目標は専門学校の大会において全国大会に出場することです。9月14日にその予選があり、四国代表の座を勝ち取れるよう頑張ります。応援宜しくお願いします。

言語聴覚学専攻 1年 片岡 小春

私は高知リハビリテーション専門職大学に入学して、初めて習う事ばかりで大変ですが、空き時間を活用し、図書館や食堂で新しくできた仲間とともに勉強しています。

今、多くの授業が、3専攻で行われており、他の専攻の友達もたくさんできました。サークルは、バレーボール部に入り先輩とも楽しく活動しています。



大綱まつりを終えて



専門職大学となって初めての大会に参加してきました。今回は学生と教職員の合同チームで観光バス引きと大綱引きに参戦した結果、観光バス引きでは並み居る強豪チームを抑えてなんと優勝を果たすことができました。大綱引きでは接戦の末に2回戦で敗退してしまいましたが、高知リハビリテーション専門職大学を地元の方々に存分にアピールできる素晴らしい戦いだったように思います。学生とともに教職員も参加することで喜びや悔しさをお互いに分かち合えることができ、とても良い夏の思い出となりました。今後も学生や地元の方々と交流ができる場を大切にしていきたいです。参加して下さった学生さん、教職員の皆様方は本当にお疲れ様でした。

理学療法学専攻 教員 柏 智之

学院祭 大学祭

開催日：
令和元年10月13日・14日

夏の暑さも終わり、涼しくなり今年も学院祭・大学祭の季節がやってきました。本年度は10月の13日、14日に開催いたします。今年の学院祭・大学祭はラーメンやうどんなどの定番のものからトッポギや米ムースなど様々な種類の出店を計画しています。また、外部からも屋台での販売に参加していただけます。伝統となっているオープニングの餅投げや、豪華賞品のビンゴ大会、各クラスが一致団結して行うユーモア溢れるクラス自慢など地域の皆さんが楽しめる企画は変えずに、学校内だけでなく、地域の皆さんと共に盛り上げ楽しめるような学院祭・大学祭を目標としています。学校全体で良い学院祭・大学祭を作りあげていくので、ぜひ皆様お誘いあわせの上、ご来場されますことを心よりお待ちしております。

学院祭・大学祭実行委員長 作業療法学科3年 竹崎 紘史



無料
送迎バス

昼食
無料

オープンキャンパス
Open Campus
令和元年10月27日(日)に開催

高知リハビリテーション専門職大学は、今年最後のオープンキャンパスを10月27日(日)に開催致します！当日は、10時30分より受付開始！キャンパスツアー(専攻紹介)、施設見学、個別相談等を通じて自分の将来について考える絶好の機会です。

どうぞ、お友達もお誘い合わせの上ご参加ください。

来年最初のオープンキャンパスは、令和2年3月20日(金・春分の日)開催いたします。





全国で活躍する 卒業生シリーズ

Vol.28

医療法人恕泉会 リハビリテーション病院すこやかな社 言語聴覚士 横山愛美

私は言語療法学科16期生として卒業し、言語聴覚士として社会に出て4年目になります。現在、高知市の春野町にある「リハビリテーション病院すこやかな社」で勤務をしており、そこは在学中の長期実習でお世話になった病院でもあります。入社から約3年間は回復期リハビリ病棟に配属され、失語症をはじめとする高次脳障害や構音障害、嚥下障害などを対象に介入をさせていただきました。

私は元々の性格として会話があまり得意でなかったことから、入社当初は言語聴覚士という職に就いたにも関わらず、患者様のみでなく周囲のスタッフとも上手くコミュニケーションをとる事が出来ませんでした。緊張しやすく、他人の言っている事が理解出来なくても聞き返せず、上辺だけのやりとりになることや自分の思っていることがうまく伝えられず苦しい境地に立たされることを恐れ、会話を避ける傾向にありました。しかし、働いていく中で評価・訓練などのご指導をいただける先輩方や気兼ねなく相談できる同期ができ、また患者様との関わりを通して、他者と関わることで自分の世界が広がっていく事の楽しさ、相手と分かり合える喜びを感じるようになりました。そもそも、以

前の私は「想い」を共有できない事の辛さやもどかしさから目を背けており、患者様の症状の改善も「何となく良くなった」と曖昧なままにしていた部分がありました。自分自身が変わった事で初めて患者様の症状に対して真剣に向き合うことができ、さらにその為に必要な「勉強」に取り組むことができるようになったと感じます。コミュニケーションに難しさがみられる方と疎通がとれた時の喜び、嚥下障害によって食べたいものを食べられなくなった方が食べられるようになっていく姿を目の前にすると、その回復過程に携わらせていただけるこの職業の尊さを感じます。この職業を通して私の人生の質が向上したように思います。

現在は配属が外来に変わり、成人に加えて小児の方々にも介入するようになりました。回復期病棟とは異なり、対象は維持期の方や発達障害などの児童になり、より短く限られた時間の介入で言語聴覚士として何ができるか、何が必要かを考えるようになりました。その度にこの職業の難しさを感じますが、その反面仕事のやりがいや楽しさを実感することも多いです。これからも尊敬する先輩方のもと言語聴覚士として成長していけるよう頑張っていきたいと思います。



図書館の利用



2019年4月より高知リハビリテーション専門職大学図書館となりました。大学図書館として、医学書などの専門書の他に新たに一般書なども揃えています。

2019年5月にオーテピア高知図書館と相互協力協定を締結しました。相互協力により、高知県内の図書館と図書館資料の相互貸借等(本の貸し借り)ができるようになっていきます。また、2019年7月には、国立国会図書館デジタルコレクション図書館向けデジタル化資料送信サービス参加館として承認されましたので、国会図書館が所蔵している貴重な資料も本学図書館内での閲覧が可能となりました。

今後も学生の皆さんにとって機能的な図書館となるよう心がけていきたいと考えています。



日本初の専門職大学

学校法人 高知学園

高知リハビリテーション 専門職大学



リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 (入学定員 150名)

PT 理学療法学専攻
(定員 70名)

理学療法士とは、病気や障がいなどで後遺症を持つ方に、運動療法および温熱・電気などの物理療法を用いて、身体機能や能力の改善を図る専門職(国家資格)です。具体的には歩行などの基本動作や日常生活活動を改善するためのさまざまな治療・援助を中心に、福祉用具の選定や住宅改修、環境調整、在宅ケアなども行っています。



OT 作業療法学専攻
(定員 40名)

作業療法士とは、こころや身体に障がいのある方や予測される方に対し、主体的な活動ができるよう、さまざまな作業活動を用いて治療・援助する専門職(国家資格)です。作業療法を通して、運動・精神機能、日常生活動作能力、社会的適応能力などの治療・援助を行っています。



ST 言語聴覚学専攻
(定員 40名)

言語聴覚士とは、「コミュニケーション」、あるいは「食べる」(嚥下・咀嚼)ことに問題がある方に対し、必要に応じて訓練・指導・助言その他の援助を行い、自分らしい生活を構築できるよう支援していく専門職(国家資格)です。聞こえの障がいや脳機能に障がいのある方に対するの検査や回復訓練なども行っています。



学校法人 高知学園 高知リハビリテーション専門職大学
〒781-1102 高知県土佐市高岡町乙1139-3 E-mail kochi-reha@kochi-reha.ac.jp
TEL.088-850-2311 FAX.088-850-2323

詳しい情報はこちらにアクセス

[学校法人 高知学園] 高知学園短期大学附属高知幼稚園／高知小学校／高知中学高等学校／高知学園短期大学

